

学 年 通 信 第二号

平成22年7月21日

明秀学園日立高等学校 第2学年



の着こなし、そして始業終業時の礼の様子等を見る限り、諸君の多くがそれらを習慣として身に付けていないようです。つまり、未(いま)だに教示されなければ実行できない状況にあります。挨拶を自ら進んで行っている者は少なく、靴や上履きの踵を踏み潰している者を見受けます。机やロッカーの中は乱雑に教科書等が詰め込まれ、しわくちゃになったプリントがはみ出し、襟元ははだけ、腰履きも目立つ。ゴミが落ちていることは間々あることだし、清掃時にしっかりと取り組まない者も依然としています。我々はすべきことを促し、指示し、時に注意しますが、一向に状況は改善されない。それは、諸君にとってすべてが、未だやらされていることに相違ないからなのです。我々の助言、指示、注意等の教示は、諸君がこれまでに習慣化し得なかった事柄に対するものですが、これらの問題の根源は、諸君にとって我々の助言、指示、注意等一切が、もはや教示や箴言(しんげん)ではなく、小言でしかなくなっていることにあります。これらの習慣を持たない諸君は経験に基づかない言い訳、つまり理屈にはしるか、または従順を装いその場をやり過ごすことに抵抗がありません。ネクタイやリボン、踵の踏みつけ、机やロッカーの整理整頓、挨拶、清掃、化粧、髪型、腰履きやスカート丈に対する我々と諸君とのやりとりは、その好例です。

—朝(あした)に道を聞かば、夕べに死すとも可なり—

一方で、2年生になってさすがに目つきが変わった人も目立ちます。遅刻・欠席をしなくなった人、化粧を一切しなくなった人も目にしています。この人達は一体何をしたのか。どうやって変わったのでしょうか。

明らかに1年生次と様子が変わった者達に何があったのかと尋ねたところ、彼等に共通する回答は「このままではまずいと感じていた」ということでした。つまり、これまでの自分を否定できたのです。他人の所為(せい)にせず、原因は自分にあると引き受けた。やはり自己を否定できないと成長は望めないのです。この人達は、このままの自分ではダメだと気づき、2年生に進級するのを機に変わろうと自らの意思で努力を始めた。内発的動機で人生を一変させようと努力を始めた。自分の意識という垣根越しに外の世界を垣間見て、あるいは背伸びして見て、このままの自分ではいけないことに気づき、これまでの自分を否定して、生まれ変わった。垣根を越えた。

正に「朝(あした)に道を聞かば夕べに死すとも可なり」ということになります。「ああなるほどと思って、それを自分の意思で実践することができたら、いままでの自分から生まれ変わることも可能なのである」

誰かの助言に「ああなるほど」とは誰でも思えます。でも、それを自分の意思で実践できたから変わることができた。素晴らしい。生まれ変わった諸君、おめでとう。

今、垣根を越えようと努力している人の多くが、なかなか長続きがしないといった悩みを抱えているはずですが。長続きしないのは何故か。その理由はただひとつです。心底から自分を否定できていないことにあります。他人の所為にして己(おのれ)をごまかし、外発的動機でしか動き得ないことに苛立ちを覚えながらも、踏み出すべき方向に一步を踏み出せない。だからこそ諸君は、もっと理想を語り、理想との隔たりに自己の至らなさを思い知るべきなのです。成長の鍵はそこにあるように思います。諸君はもっと、野辺に仰向き、轡(くつわ)を並べ、雲を追わなければなりません。

—手伝いや挨拶の習慣を持たず、況(いわん)や学習の習慣をや—

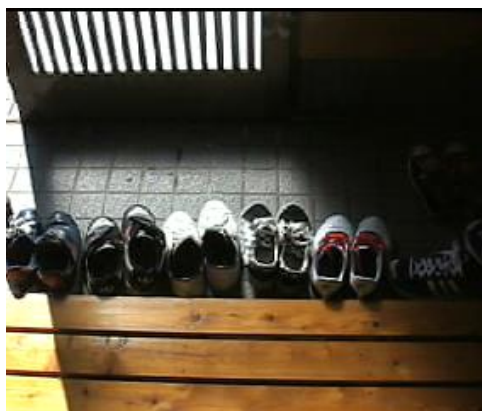
注意を受けて襟元を正し、注意を受けて化粧を落とし、注意を受けて髪を切り、注意を受けて髪を染め直し、指示されて掃除をし、注意を受けて静かにし、注意を受けて姿勢を正し、宿題をやらされ、…と外発的動機による行いの例を挙げれば枚挙(まいげ)にいとまがありません。多くの諸君は「やらされる」それが当たり前の行動基準になっています。このままでは、これからの進路も、下手をすると他人が決めることになり兼ねません。他人に決められたことは長続きしません。くどいようですが、襟元をちゃんとしろと言われて、そのときだけちゃんとするのと同じことです。もうそろそろ自分の意思で動き始めなくてはなりません。やらされてやらされて、外発的動機で動かされて、達成感があるわけがない。いつまでそうしているつもりでしょうか。もう悠長なことは言っていられない時期になりました。鍵を握る大切な2年生の時期はもう1学期が過ぎ去ってしまいました。しかし、現状は呆れるばかりではありませんか。余りにも他律的すぎます。

その大きな要因は、前述したようにどうやら諸君が習慣を持ち合わせていないことにあるようです。

盛夏の候、皆様方にはいよいよご清栄のこととお喜び申し上げます。
明秀日立生(白梅)の諸君。「明るく・清く・凛々しく」の建学の精神に照らし合わせ、それに適うよう日々を過ごしていますか。白梅への道標である校訓を日々実践していますか。「やるからやる気が出る」を実感していますか。
さて、2学年の学年通信第二号からは、現代版「学問のすすめ」を提言していきたい。この第二号も、よく目につくところに貼り付けておくこと。
『光陰矢の如し。少年老いやすく学成り難し』諸君！思索にふけり、垣根を越えよ。

学問のすすめ —その前に—

—得るものが大きければ失うものも大きい—



整然と揃えられた履き物

自ら動くという行為が自(おの)ずからできる。これが習慣というものです。例えば履物を揃えるという習慣。左の写真の光景は、一人ひとりの意思が履物を揃えるという行動を起こすことによって成り立った光景です。昨今、こうした次々に受け継がれてきた習慣が失われつつあるように感じます。挨拶、衣服の折り畳みなどに始まる身のまわりの整理整頓、衣服の着こなしに始まる身だしなみ、ゴミを捨てないことやゴミを拾うこと、表を掃くこと(掃く範囲は、向こう三軒両隣です)、清掃、諸々(もろもろ)の家事手伝い。こうした習慣は、いわゆる「躰」によって身に付くものです。「躰」はこれらが習慣として身に付くまで繰り返されます。つまり言われなくても自分からできるようになるまで庇護する者が教示していくものです。受け継がれてきた習慣が日常から姿

を消しつつあるということは、自らの意思で自らを動かす力を養成する「躰」という教示が、日本の日常から失われつつあるということを意味します。この主な原因のひとつに、我々日本人が快適な生活(これを文化的な生活と言うには抵抗があります)を手に入れたことがあります。便利になった分、体を動かさずに済むようになった、手間が省けたことによって、諸君から努力することや辛抱することや考えることを奪ってしまったと言われています。快適な生活は「躰」そのものと「躰」によって身に付けてきた習慣を我々から奪いました。自らの意思で自らを動かす力が諸君に如何に欠けているかは、後に示すアンケート結果にもはっきり現れています。得るものが大きければ失うものも大きいのです。

諸君に尋ねたい。靴を脱いだら揃える習慣はあるだろうか。自ら挨拶をする習慣はあるだろうか。脱いだ衣服を畳む習慣はあるだろうか。落ちていたゴミを拾う習慣はあるだろうか。整理整頓の習慣はあるだろうか。清掃する習慣はあるだろうか。そして、任されている家事手伝いはあるだろうか。つまり、自ら動いて実行できる習慣と呼べる行為をいくつ身に付けているだろうか。

諸君の挨拶の様子、靴や上履きの履き方、机の中やロッカーの中、体育時に教室に脱ぎ捨てられた制服、制服

平成21年度入学生 自宅学習アンケート調査 (H22. 3)

| 設問文 | 自宅学習の形態は | | | | ダイアリー・リテラシーノートが | | | | 自宅学習に不安を感じる点は(複数回答可) | | | | | 自宅学習の平均時間は | | | この一年を振り返って、学力がついたと思う | | | | | | | | |
|---------------------------------------|----------|-------|-----------------|----------------|---------------------|---------------------|-----------|-----|----------------------|-----------------|-----------|----------|---------------|--------------|-------------|------------------|----------------------|------|-----------|-----------|-------|--------|------------------|-----------|-----------|
| | a | b | c | d | a | b | c | d | a | b | c | d | e | a | b | c | d | a | b | c | d | | | | |
| 高校に入学してからこれまでを振り返って、中学時に比べ学習習慣がついたと思う | そう思う | 変わらない | 反って学習時間が減ってしまった | 自宅学習はほとんどしていない | (どちらかといえば) 隙間型学習である | (どちらかといえば) 一括型学習である | どちらともつかない | その他 | 活用できている | どちらかといえば活用できている | どちらともつかない | 活用できていない | やる気がなかなか起こらない | 学習環境に恵まれていない | 学習時間が確保できない | 不得意な教科に学習時間を割けない | その他 | 1時間内 | 1時間以上2時間内 | 2時間以上3時間内 | 3時間以上 | 学力がついた | どちらかといえば、ついたと思う。 | どちらともつかない | 学力がついていない |
| 選択肢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 82 | 88 | 29 | 23 | 42 | 109 | 58 | 3 | 7 | 23 | 66 | 110 | 150 | 18 | 41 | 53 | 10 | 120 | 68 | 12 | 4 | 26 | 104 | 59 | 15 |
| 合計 | 223 | | | | 212 | | | | 206 | | | | | 272 | | | 204 | | | | | | | | |
| % | 36.8 | 39.5 | 13.0 | 0.4 | 19.8 | 51.4 | 27.4 | 1.4 | 3.4 | 12.2 | 33.0 | 53.4 | 56.1 | 6.6 | 15.1 | 19.5 | 3.7 | 88.3 | 33.9 | 5.9 | 2.7 | 22.3 | 51.9 | 28.9 | 7.4 |

この表は1年次の年度末に調査した自宅学習アンケートの一部です。

注目すべきは、「自宅学習に不安を感じる点は」の質問に150人(55%)の諸君が「やる気がなかなか起こらない」と回答していることです。これは「自分の意思で学習に向かうことがなかなかできない」ということです。入学時から訴えてきているように、やる気が起きてから勉強するなどということは不可能に近い。そんなふうに勉強できる人がはたしているかどうか。「やる気」は、まず自らを動かして初めて生じるものです。その『まずは自らを動かす力』が養成されていないことをこの結果は意味しています。

なまじっか快適な生活を送ることができるようになったばかりに、我々は日常生活の中から「自らの意思で動くべき行為」つまり「習慣」を失ってしまいました。「手間のかかる行為」をことごとく排除することが我々にとって快適な暮らしであることは言うまでもありませんが、その実現の見返りに、我々は『まずは自らを動かす力』という大きな代償を支払いました。その力を得るプロセスを手放したのです。

かつて我々は「手間のかかる行為」を「習慣」として手なずけていました。それが「習慣」として定着するまで、「躰」が施されていたのです。炊事、洗濯、掃除、風呂焚き、子守り。これら「習慣」の合間に、先人は自ら進んで教科書を開き、勉強していました。驚くことに、こうした「習慣」が日常生活に組み込まれていた当時の人達にとって、自ら教科書を開くことは苦ではありませんでした。

快適で便利な生活が送れるようになり、これによって生まれた余暇は一層勉強に励むことに費やされるはずだったのですが、それは大きな間違いだったのだと今漸く分かってきました。

「何度も言うけど、からだを使って、習熟して身につけなくちゃならないことが、非常に減っちゃっているから、すぐ理屈に回る」「ボタンを押したら、ご飯が炊ける。キミたちのせいではないけれど、そういう世界で生きているでしょう。だから、あいだの課程が全部抜けてしまって、で、結果だけを早く求める。途中のプロセスを全部とばしている」(「バカなおとなにならない脳」養老孟司 理論社)

ダイアリー・リテラシーノートが活用できている3.4%、どちらかといえば活用できている11.2%には、習慣を持たないものが、新たに習慣を身に付けることの困難さを示しているし、自宅学習の形態が隙間型学習19.8%、一括型学習51.4%からも、諸君の日常生活に習慣といえば食事と入浴と歯磨きくらいしかなくなって

いることを教えています。この結果から、『家庭学習の習慣』が身に付いていない生徒が多数派に上ることがわかりました。しかし、この現実には諸君の学校生活の様子を見れば納得がいきます。

諸君に「やる気が起きない」のは至極当然のことです。だからと言って(同情はしますが)、もちろん勉強しなくて良いと言っているわけではありません。

－謙虚になること－

今や、諸君にとって「手間のかかる行為」かつ「自らの意思で動く行為」といえば、『学習』くらいのものでしかなくなっています。その他の日常と言え、ボタンひとつで結果が出せる世の中ですから、自分の努力による結果ではないのに関わらず、自分の力により勝ち得たものと錯覚してしまいます。諸君に謙虚さが足りないのはそこから来ています。すぐに結論だけを求め、ネットや電子辞書で情報を手に入れる。これでは、努力に対する不信感も募ります。人間の能力は退化するばかりですね。「**今でも過疎地にいけば、自然が残っているでしょう。そんなところじゃ暮らせないってことは、楽がしたいということでしょう。楽ばかりしたら、人間滅びることが、わかっていない**」と前掲の本で養老氏も言っています。我々の生活は、科学技術によって支えられています。その技術を取ってしまったら、自然の前に我々は無知で無力な存在であることがわかりますよね。だからせめて謙虚さを持たねば。親に学校まで送ってもらっている人、自分だけでは登校も儘ならないのですから、せめて「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えなさい。注意をされて言い訳(理屈)をホザく人、習慣を持たない自分を恥じ、謙虚になりなさい。いいですか、こうした習慣を持たないということは、自ら自分を動かす力を持たない、その結果努力するプロセスを身に付けていないということです。これは、由々しき問題です。

－生活習慣を改善するには－

『学習』の結果はそう易々とは出ません。自ら自分を動かす力を持ち、そのプロセスを辛抱強く身に付けていかなければ結果は出ません。そのためには生活習慣を改善していかなければならないことが分かったでしょう。

21世紀型学力の調査研究を行う早稲田大学の田中博之教授は生活習慣の改善のひとつとして見直したいのが『挨拶』であるとし、「朝起きたら『おはよう』と挨拶をしてさっと身支度をする、『おやすみ』と言ったらすぐ布団に入るといった挨拶と行動を結びつけていくことで、生活習慣を規則正しいものにしていくことができる」と言っています。諸君の家庭での様子はだいたい察しが付きます。家庭内で挨拶の習慣がなければ、学校生活においても挨拶の習慣が構築されるわけがありません。お座なりの挨拶を終え、授業が始まっていますか。中には授業が始まったという意識に乏しい人がいませんか。つまり、挨拶と次の行動が結びついていない人。「お願いします」と言っておきながら、休み時間の延長が始まります。加えて、外発的動機で動かされているから殊のほか緊張感が希薄です。自ら学ぼうという意思のないところには緊張感は生まれません。見れば、やらされている顔が並んでいます。授業を受けさせられている。自ら学ぼうという意思があれば、緊張感が生じ、おしゃべりも出てこない。授業中の私語は考えられない行為です。清掃も一緒です。掃除をやらされている。起立礼も一緒。挨拶をやらされています。やらされているから、椅子の出し入れで聞くに堪えない凄い音が鳴ります。

以上、脳科学者や教育学者も指摘するように、手伝いや挨拶の「習慣」が知力や人間力の育成には不可欠であることが分かりましたね。だから、諸君はこれから手伝いや挨拶といったこれまでに習慣化し得なかったことを身に付けていくしかない。それしかありません。ただ、躰直すには、大きく成り過ぎた諸君に、一体そんなことができるのか。だからこそ、ここで「あなるほどと思って、それを自分の意思で実践することができたら、いままでの自分から生まれ変わることも可能なのである」ことを思い返してほしい。

ちょっとイメージして下さい。“やる気が起こらない”こんな時皆さんはどうしますか。テレビを見る。音楽を聞く。メールをする。ゲームをする。何か手伝いをする。テレビを見たり、音楽を聞いたり、メールをしたり、ゲームをしたりしても、学習には向かえません。経験でわかっていますよね。手伝いという誰かの役に立つ行為を行うことで、まるでご褒美をもらえたかのように勉強に向かう力が与えられます。

何だ、そんなことなら初めっから言ってくれよと思ったでしょ。それじゃダメなんです。ここに至るプロセスが、それを踏むことに対する努力(この通信を読むこと)が重要なんです。いかがでしょう。(終)